

がんの地域連携パス関連

I. 平成24年度の経緯、活動報告

- ① 診療報酬の改定により、4月から「がんの地域連携パスに関する施設基準の届出書類」の簡略化が行われ、連携医療機関からの届け出は不要となり、拠点病院から退院後30日以内の届出のみで診療報酬の算定が可能となった（初回治療で入院患者のみ）。
- ② 平成24年6月14日に幹事会・がんパスWG合同部会を開催した。
 - ・ 24年度の活動方針の確認
 - ・ 施設基準の届け出書類の簡略化をふまえて、まずは、5大がんの運用を推進
 - ・ 胃がんESDパス、肺がん術後パス（Ⅱ期、Ⅲ期）などを承認した。
 - ・ 子宮体がんパス、前立腺がんパス、緩和連携パスの提案と意見交換を行った。
- ③ 7月に、新しく承認されたがんの地域連携パスについての資料を、協議会のHPに追加。医療関係者・患者家族、市民県民への周知を図った。
- ④ 国指定、県指定の拠点病院、準じる病院（計37病院）において、「パス運用マニュアル」、「緊急対応表」などの再確認を行った。また、6/14以降に追加された準じる病院（6病院）にも順次再確認を行った。
 - ・ 患者・住民医療の利益に適う方向で連携医の理解・協力が得られる形で推進める
 - ・ パス推進の前提として各拠点病院での緊急対応表とマニュアルを確認する
- ⑤ 各拠点病院、圏域（郡市区医師会）ごとに協議と説明会を開催（医師会主導での開催を依頼）し、地域の医療状況に応じて必要であれば修正した上でパスへの参加を要請した（8月11日に神戸市医師会主催のがんパス説明会に出席し、がん地域連携パスと診療報酬に係る施設基準届出について説明を行った）。
- ⑥ 24年1月と12月に各拠点病院、圏域での進捗状況把握のためのアンケートを2回実施した。
- ⑦ 子宮体がんパス（県統一版）をHPに掲載済み。前立腺がんパスは県統一版が確定しHPへ2月に掲載予定。緩和連携パスは検討中。
- ⑧ 25年2月時点で、県内のがん診療連携拠点病院は国指定14、準じる病院（県指定10、ほか19）の計43病院となった。
- ⑨ 平成25年2月7日に、幹事会・がんパスWG合同部会開催（本日）

II. アンケート結果報告（資料参照）

- ① 25年3月末時点（がん拠点44病院）で調整中9病院、施設基準の届け出前2病院、施設基準の届け出中10病院、パス稼働20病院、5大がんすべて稼働3病院。
- ② 全県で1,020件のパスが運用中。乳がん387例（38%）、胃がん303例（30%）、大腸がん149例（15%）、肺がん137例（13%）、肝がん44例（4%）が運用中。
- ③ 施設基準の届出書類」の簡略化が行われ、拠点病院が増えたが、がんパスの運用はあまり進んでいない。
- ④ 県内の各圏域での医療資源に差があり、各圏域の医師会、拠点病院でのがんの地域連携パスへの取り組みや意識、進行度などに差あり。

Ⅲ. 各がんパスWG報告

- ① 胃がんWG (小林先生)、② 大腸がんWG (松原先生)、③ 肝がんWG (岩井先生)、
- ④ 前立腺がんWG (井上先生)、⑤ 子宮がんWG (藤原先生)

Ⅳ. 「がんの地域連携パス」運用上の課題、問題点

拠点病院側：

- ・ 拠点病院内での周知不足。
- ・ 拠点病院にとってパス運用に関するインセンティブが少ない。拠点病院の医師には、業務増加となり進まない。
- ・ 入院が短期間の場合（乳がん、肝臓がん（ラジオ波焼灼））や術後病理病期は退院後に確定する。パスが運用できるか否かの判断や連携手続等は外来診察時に行うため業務量過多となり、外来が終わらない。
- ・ パス適応患者の再考（初回入院のみの算定ではなく外来患者も、退院後30日以内ではなく6ヶ月以内に申請、など）
- ・ 患者への説明・パス準備など病院医師、地域連携室の作業が増加。拠点病院担当医と紹介医（かかりつけ医）との連携を円滑に介在できる担当者（看護師、MSW、コーディネーター）がいない。
- ・ 主治医より”入院後のがん地域連携パス対象患者の把握を地域医療連携室で行って連絡して欲しい”との要望あり。

連携医療機関側：

- ・ 連携医への地域連携パスの周知不足。理解不足。
- ・ パス運用に関する連携医のインセンティブが少ない。
- ・ 書類が多く面倒。気がすすまない（消極的）。

患者：

- ・ 患者の地域連携パスに関する周知不足。理解不足。
- ・ かかりつけ医が少ない。紹介元ではなく他院へ紹介することへの同意が得にくい
- ・ 地域完結型医療についての理解不足。

Ⅴ. 緩和連携パスについて（池垣先生）

Ⅵ. がんの地域連携パス運用時の確認事項について

- ① がん地域連携パス運用の前提として、協議会HP掲載の「パス運用マニュアル」や、緊急時対応（緊急時連絡表とマニュアル）について、各拠点病院で再確認を行う。
- ② 近畿厚生局に提出する医療者用の連携計画書については、兵庫県統一版での提出を依頼する（年に1回、7月1日付のもの）。
- ③ 近畿厚生局に提出する書類以外は、二次医療圏での各拠点病院の状況に即して必要に応じて、適宜修正のうえ運用を行う。
- ④ パス適用症例については各拠点病院ごとに、リスト作成（全例把握）を要請する。
- ⑤ 各拠点病院は、申請のあった連携医療機関と、がんパスの進捗状況を、6ヶ月に1回程度、兵庫県がん診療連携協議会事務局（以下、協議会）に報告。
- ⑥ 連携医療機関の名簿、がんパスの進捗状況は、各圏域における郡市医師会、兵庫県医師会、協議会、各拠点病院、疾病対策課で共有する。

なお、がん地域連携パスの全資料は、協議会のHPにPDFファイルで掲載しています。

(http://www.hyogo-ganshinryo.jp/critical_path/index.html)

ワード、エクセルなどでのデータが必要な場合は、事務局までご連絡をお願いします。また、各拠点病院、準じる病院での運用などで一部変更した場合は、変更点（修正点）も事務局までお知らせください。

VII. 平成25年度の予定

- ・ 幹事会・がん地域連携パスWG合同会議 6月6日（木）15:00-（兵庫県私学会館）
パス適用症例については進捗状況の確認。課題や問題点の把握、など。
- ・ 兵庫県がん診療連携協議会主催 第3回「ひょうご県民がんフォーラム」
11月16日（土） 14:30-17:00 兵庫県民会館9F「けんみんホール」
患者・家族、県民・市民を対象として、がん検診、がん医療、がん地域連携などの意識の醸成を図る。
- ・ 第2回幹事会・がん地域連携パスWG合同会議 2月6日（木）15:00-（兵庫県私学会館）

がんの地域連携パスWG関連

➤ 平成24年度の経緯, 活動報告

- 4月から「がんの地域連携パスに関する施設基準の届出書類」の簡略化が行われ、連携医療機関からの届け出は不要となり、拠点病院から退院後30日以内の届出のみで診療報酬の算定が可能となった。
- 6月14日の幹事会で、胃がんESDパス、肺がん術後パス(Ⅱ期、Ⅲ期)が承認された。
- 子宮体がんパス、前立腺がんパスは県統一版が確定しHPに掲載された。緩和連携パスは検討中。
- 平成24年度末時点で、県内のがん診療連携拠点病院は、国指定14、県指定20、準拠点20 の計44病院となった。

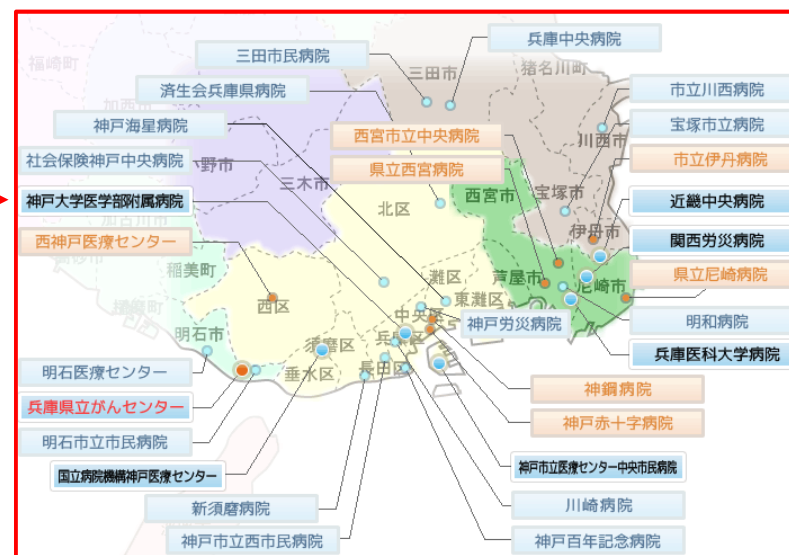
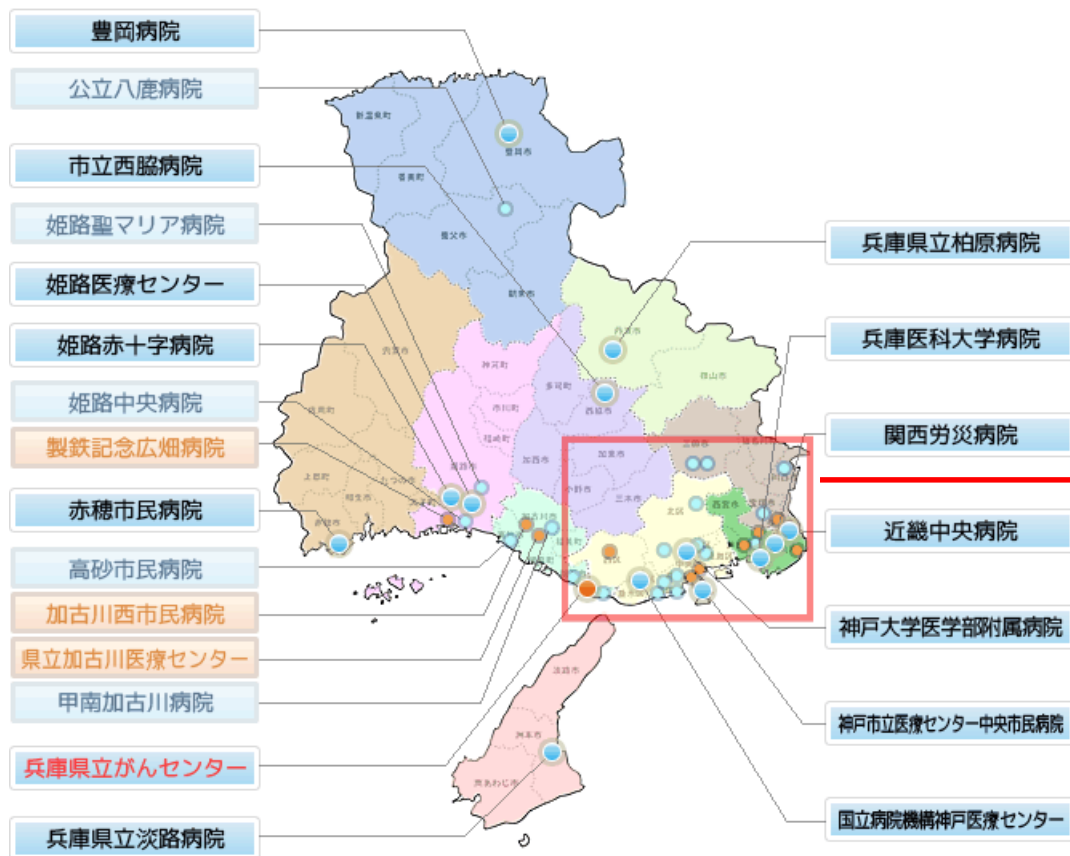
➤ 運用中のパス (兵庫県統一版)

- H22年度策定; 肺がん, 胃がん, 大腸がん, 肝がん, 乳がん
- H24年度策定; 胃がんESD, 肺がん術後汎用(Ⅱ/Ⅲ期), 子宮体がん, 前立腺がん
- 施設基準の届出書類の簡略化が行われ、拠点病院が増えたが、その運用はあまり進んでいない。(アンケート結果)

がんの地域連携パスWG関連

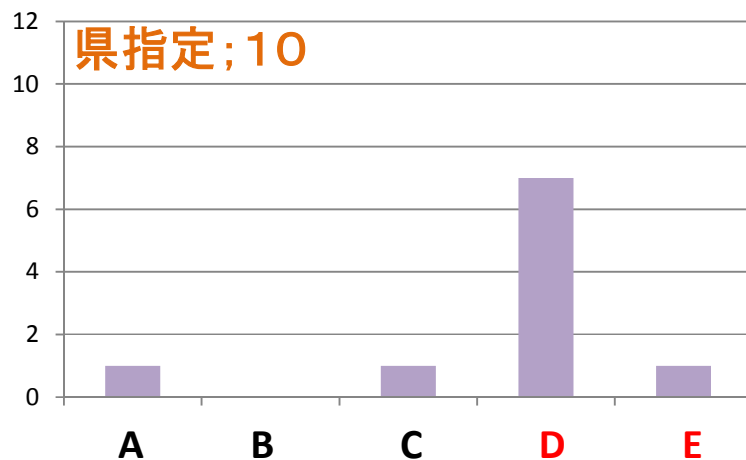
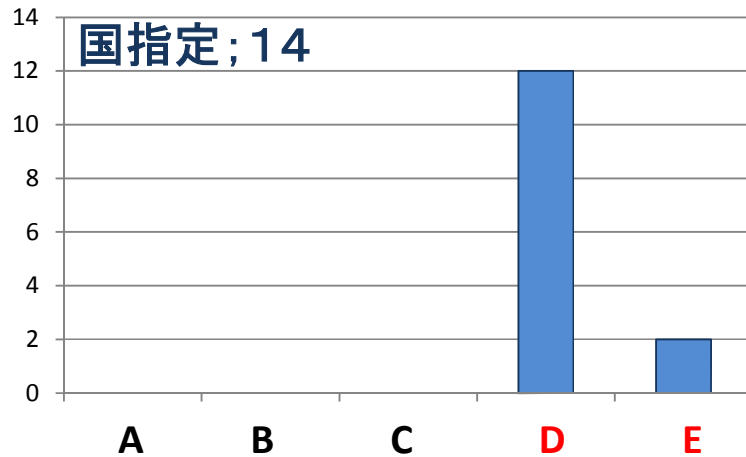
➤ 地域がん診療連携拠点病院

◆ 国指定; 14
 ◆ 県指定; 10
 ◆ 準拠点; 20
 (平成25年4月, 44病院)



がんの地域連携パスWG関連

➤ 1. 連携システムの構築, パス進捗状況について



- A: 院内で調整中である
- B: 施設基準の届け出前
- C: 施設基準の届け出が始まっている
- D: 実際にパスが実動している(少なくとも1種類)
- E: 5大がん全てのパスが稼働中

がんの地域連携パスWG関連

がん診療拠点病院・指定要件

1. 診療体制;(1)診療機能, [1]ーイ; **パスの整備**

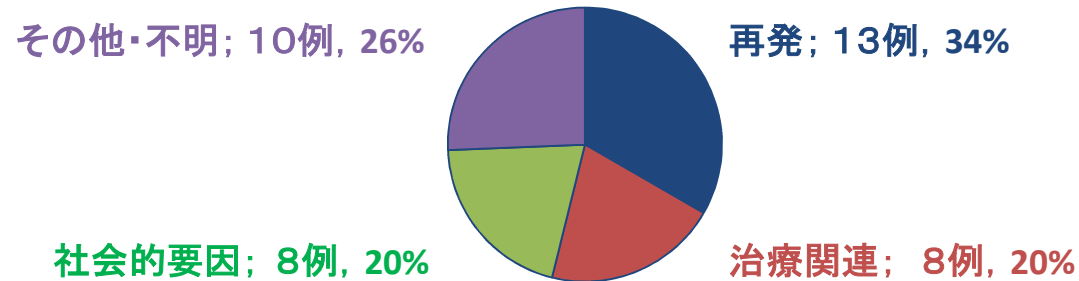
➤ 2. パス稼働について

兵庫県内パス登録件数 (平成22年4月～平成25年3月の累計)						
	合計	肺がん	胃がん	大腸がん	肝がん	乳がん
	1,020	137	303	149	44	387
県立がんセンター	245	51	92	65	7	30
近畿中央病院	156	1	41	18		96
姫路赤十字病院	101		11	9	7	74
関西労災病院	98	4	54	3		37
県立淡路医療センター	89	41	24	4	20	
神戸市立医療センター中央市民病院	75	11				64
兵庫医科大学病院	33	10	2	3	1	17
神戸医療センター	21		7	14		
姫路医療センター	16	14				2
神戸大学医学部附属病院	8				3	5
市立西脇病院	7		2	3	2	
県立柏原病院	3		2	1		
豊岡病院	2		1	1		
赤穂市民病院	1			1		
製鉄記念広畑病院	45					45
県立尼崎病院	40		40			
市立伊丹病院	32	3	10	14		5
姫路中央病院	20		5	4		11
他 6施設 (20施設;未登録)	28	2	15	12	4	1

がんの地域連携パスWG関連

➤ 3. パス脱落例について

計 1,020	肺がん 137	胃がん 303	大腸がん 149	肝がん 44	乳がん 387
39例, 3.8%	9例, 6.6%	11例, 3.6%	6例, 4.0%	8例, 18.2%	5例, 1.4%



➤ 4. バリアンスについて

計 1,020	肺がん 137	胃がん 303	大腸がん 149	肝がん 44	乳がん 387
11例, 1.1%	4例, 2.9%	2例, 0.7%	2例, 1.3%	3例, 6.8%	0

がんの地域連携パスWG関連

紹介元医療機関：登録済みまたは未登録

受付：紹介状受け取る（登録医療機関の確認しない）

外来 診断がつき、入院予約時

Dr：入院申しこみ時に、「退院計画」で「がんパス候補・急性期状態が落ち着くまで」を選択して登録する

日本データ入院係り：紹介元医療機関が、がんパス登録済みか、未登録か確認する

登録している

未登録

パス登録の案内用紙を医療機関に
FAXする

地域連携室：未登録の医療機関からFAXを受け取る

- ①「医療機関マスタ」に、登録パス名を入力する
- ②医事課に近畿厚生局への登録を依頼する

「医療機関マスタ」に、登録希望しないと入力する

入院病棟：

- ①「あなたを支える地域連携パス」を患者にわたす
- ②患者に同意を得る
- ③地域連携室にFAX用紙を送る
- ④決定すれば、掲示板に「パス適応中」と入力
- ⑤プロフィール「地域連携パス」にチェックする
→患者バーに「地」の表示



地域医療連携室：
患者・家族と相談の上、